



津田ひかる選手、 熊日スポーツ賞(奨励賞)を受賞! 1月19日 熊本日日新聞社

2013年に活躍した県内の個人、団体に贈られる第44熊日スポーツ賞の奨励賞を2012年に続き受賞した。2013年2月の全日本選手権大会で2年ぶりに優勝を果たし、通算でも4度の優勝を果たした事などが、受賞の決め手となった。

熊日本社の授賞式には、父であり県協会理事長の佳輝氏も協会役員として出席、受賞を見守った。

阪上、津田選手、熊本市スポーツ奨励賞を受賞!

2月1日 熊本市総合体育館・青年会館

熊本市体育協会・熊本市等が主催する平成25年度熊本市スポーツ奨励賞贈呈式は、2団体6名の選手に決定。今回、熊本学園大学の推薦を受け阪上弘一選手、津田ひかる選手の2名がテコンドー競技としては初めて授賞した。

同じ受賞者として2013年の全国剣道選手権大会で通算3回目の優勝を飾った内村良一選手(警視庁)も受賞した。

熊本県正会員を不服とし 日本仲裁機構へ特定仲裁を申し立て! 2月8日

昨年12月、県協会の代理人田中裕司弁護士宛に熊本県の正会員をクマモトテコンドーアカデミーの西村紀幸氏へ理事会決議で決定したとの通知書が送られてきたが、代理人は不当な決定であるとして、全日本協会に文書を送り詳しい説明を求めたが、昨年の全日本ジュニアの騒動時と同じく、樋口会長が未だに熊本県協会会長職にあり、県協会が決定した津田佳輝理事長が樋口氏と同調している等の理由で正会員を却下した。

代理人は定款上何の問題もない上に、県協会の人事権まで介入することは出来ない。そもそも2005年に全日本協会に加盟した熊本県協会はすでに既得権を有しており、競技者は個人登録も行っている。加盟団体はその都道府県を統括する団体であり、一つの県に一つの組織が常識であり、熊本県協会は公益財団法人熊本県体育協会へ加盟している団体もある。

今回の全日本協会の決定は、越権行為であり、早々に日本スポーツ仲裁へ津田理事長名で特定仲裁を申し立てたが、2月16日現在で、全日本協会からの仲裁同意はない。樋口会長は「このような手法で地域の加盟団体に介入し、意にかなう組織を作ればイエスマンのみの組織となり民主的な組織運営が出来なくなる。常識的には考えられない事であり、内閣府の勧告を受けてもこのような強権運営をすることは、もはや公益社団法人としては、組織の体をしてない早急に同意し公的な場所での決着を求める」と語った。

この問題は、地元紙、熊日新聞、全国ネットニュース等でも掲載された。

津田ひかる選手、県スポーツ優秀賞を受賞!

2月19日 熊本県庁

平成25年に全国大会、国際大会等で優勝した中学生から一般までの66名に熊本県からスポーツ優秀賞が贈られ、津田ひかる選手が全日本選手権の優勝等が評価され今回2度目の受賞となった。津田選手は大学生、一般の代表として村田副知事から表彰を受けた。

全日本選手権大会、県選手団壮行会開かる! 2月24日

3月2日に姫路市で開催される全日本選手権大会に出場する県選手団(選手9名、コーチ3名)の激励壮行会がこの度、60名の出席で行われた。佐藤雅司、県議会副議長、筑紫汎三、県協会相談役の来賓あいさつの後、樋口悦夫県協会会長から激励金が贈られた。

選手を代表して、牧野信一選手と津田ひかる選手が大会に向けての決意を述べた後、北里敏明、県日韓親善協会会長(県協会顧問)が乾杯を行った。熊本大学テコンドー部による演武や、タイ捨流剣術宗家、西島淳一先生による甲冑での応援演武に会場は一段と盛り上がりを見せた。

各選手の健闘を祈りたい。



テコンドーくまもと Vol.42

TAEKWONDO KUMAMOTO 2013.10 ▶ 2014.2



西日本地区大会 熊本県選手団

個人戦全階級を制覇!女子団体は学園大が優勝! 第11回全九州学生選手権大会 10月27日 熊本大学黒髪北キャンパス体育館

大学生、専門学校生による第11回全九州学生選手権大会は、今回、熊本大学の主管により九州5県より11校110名が参加して開催された。

開会式では熊本大学山中至副学長の激励のあいさつが行われた後に、個人戦キヨルギから男子5階級、女子4階級で熱戦が繰り広げられた。男子5階級は、熊大勢が4階級を制覇、1階級は学園大が優勝、女子4階級は、3階級を学園大、1階級を熊大が制覇、男子-54、-58、-63kg級の決勝は、サンドレスとなる白熱した試合となり、いずれも熊大勢が制し、主管大学での開催を好成績で終えた。

大学生による全ての運営を主旨とした九州学生大会、またひとつ歴史を刻んだ大会となつた。



全九州学生選手権キヨルギ

記念撮影

最優秀選手賞に富田大翔選手(阿蘇道場) 第16回県ジュニア選手権! 11月24日 合志市ヴィーブルサブアリーナ

第16回県ジュニア選手権大会は県内12の支部道場から64名が出場して熱戦が繰り広げられた。開会式では県協会への寄付等に對して、家入貴久男氏、松田正行氏の2名に感謝状が贈られた。その後ブンセ競技個人戦から試合が行われ、ブンセ団体では、阿蘇道場が優勝。個人キヨルギは幼児から中学・高校生までの13階級で行われ、5階級を武道館道場4階級を宇土道場が制した。

最優秀選手賞には、小学5・6年生量級を制した富田大翔選手(阿蘇)が選ばれた。



記念撮影

キヨルギ試合

記念撮影

キヨルギ試合

記念撮影

KTA
KUMAMOTO
TAEKWONDO
ASSOCIATION

※大会結果の詳細はホームページに掲載

第4回テコンドーフレンドシップ海がめ杯 10月6日 岡垣町サンリーアイ

福岡県協会岡垣町テコンドー連盟の植竹 嘉孝会長が主催する2年に一度開催される大会で、九州各県から134名の選手が参加して盛大に行われた。今回熊本県協会からは、熊本大学・武道館・本部・不知火・鏡から16名の選手が出場した。

全日本クラス、九州大会の上位入賞者が出場するなか熊本県の出場選手は県外の大会が初めてという選手が多く上位入賞が難しいなかで、よく健闘し7つのメダルを獲得した。



熊本県選手団

第8回仙台市親善テコンドー選手権大会 10月13日 仙台市HALEOドーム

仙台市テコンドー協会が主催し、相原道場が主管となり開催された。

今回熊本県協会からは熊本大学の2年生を中心に9名の選手が参加、ほとんどの選手が初級クラスにエントリーし優勝4名・準優勝2名・3位1名の好成績を収めた。



キョルギ

表彰式

表彰式

第7回全日本テコンドー選手権大会西日本地区大会 11月17日 大分県ダイハツ九州アリーナ

全日本テコンドー選手権大会西日本地区大会が平成25年11月17日(日)大分県のダイハツ九州アリーナで97名の選手が出席し開催された。

県協会からは熊本大・学園大・崇城大・武道館・菊池支部より9名の選手が出席し、5名の選手が入賞。

すでに出場権を持っている3名と併せて来年3月に開催される全日本選手権に県協会からは9名の選手が出席する事になる。



5名の選手が入賞

イ・キュヒョン国技院・新院長に面談!

11月11日 韓国ソウル 国技院



イ・キュヒョン国技院長と

10月末に国技院の新院長に就任したイ・キュヒョン院長に就任のお祝い、段申請の件等でソウルにある国技院を訪れた。

イ・キュヒョン院長は樋口清輝、県協会理事が卒業した啓明大学の教授を歴任、清輝理事も教え子の一人である。

また2009年阿蘇で開催した第3回熊本オーブンへ出席いただき、ブンセ講習会、模範演武の披露など、熊本にも所縁のある方で、世界平和賞を受賞するなどテコンドー界で偉大な人物である。

今回、同じ啓明大の教授で樋口会長と15年来の旧知の仲である同大学テコンドー学科、崔成坤(チェ・ソンゴン)教授と共に約1時間に亘り会談、段申請についてのアドバイスを頂いた。

県選手無期限停止処分騒動の新たな文書が発覚!

6月29日に開催された全日本協会総会の議事録及び資料が先月、県協会並びに津田佳輝理事長へ送付されてきましたが、その議事録には県協会へ通知された「県協会選手の無期限出場停止の決議」の記載が一切なく、また6月8日付けの西村紀幸前阿蘇支部長の要望書的な文書が添付されてきました。

本県だけに送られて来たものか数県に確認したところ、間違いなく添付されている事が確認でき、事実であれば大変残念で遺憾な事であります。

※文書はホームページに掲載しています。

冬季昇級審査会に115名が受験! 12月8日 県民運動公園体育館

今年最後となる昇級審査会は県内支部道場、大学等から115名が受験した。基本移動ブンセキヨルギと受験者は熱心に合格目指して取り組んでいた。

昇級審査後、託麻コミュニティセンターで支部長会議が行われ、来年度の行事案、活動方針、全日本協会からの文書について等、約2時間に亘り意見が交わされた。

その後、恒例となった忘年会を北里副会長のご子息が経営するアジアンレストラン「ガンジ」で行い今年の県協会の行事を無事に終了した。



冬季昇級審査会の様子



内閣府・全日本協会へ勧告!

12月10日、内閣府は全日本協会に対して、資格停止処分の手続き等に付き定款に抵触するなどとして勧告を行った。全日本協会では、理事会の決議等で賞罰規定を運用し総会での議決権を禁止しているが法的に抵触するとして早急なる改善を促した。

昨年、樋口会長他数名で協会運営JOC謝金問題の解明等を求めて臨時総会請求を行い、総会当日、資格停止期間だとして出席出来なかった件など、不合理制を指摘したと云える。

今年になり柔道連盟、アイスホッケー連盟に次ぐテコンドー協会の勧告処分となつた。

内閣府、コーチ謝金問題等で全日本協会へ報告要求! 12月28日

12月10日、資格停止処分を受けた正会員が総会等での議決権を奪う事は出来ない等とした、内閣府からの勧告に続き、27日、昨年問題となったJOCからのコーチ謝金問題で金原昇会長が協会役員、正会員等の知らないところで専任コーチから、現金でその一部を徴収した件等を重視し、会計処理が適正にされているか等、1月31日迄に報告するよう全日本協会に求めた。

予てより樋口会長他数名が、このコーチ謝金問題の真相解明を行ってきたが、樋口会長含め、そのメンバー4名の正会員が、大きな理由もなく資格停止、除名等の処分を受けていた。

ここに来て、内閣府も全日本協会の組織運営が適正に行われていないと判断したものと考えられ、公益法人資格の取り消しの可能性も現実味をおびて来た。

県協会ホームページのコラム欄を一読すれば、今まで全日本協会へ警鐘を鳴らし続けた意味が理解できる。

訃報!窪田速男八代支部長逝去

3年前に重病を患い、その後、昨年4月には一時病気を克服し前期理事会にも出席し元気な姿を見せていた窪田支部長が1月11日、自宅で容体が急変、緊急手術のかいもなく52歳と云う若さで亡くなられた。

窪田支部長は人吉支部長、八代支部長を歴任、温厚な性格で道場生にも大変慕われていた。また、協会理事としても活躍、県体育協会主催の日韓高校生スポーツ交流では韓国にへ引率役員として訪韓するなど協会事業にも活躍いただいた。

12日通夜、13日葬儀には県協会からも支部長、役員が弔問に訪れた。樋口県協会会長は、「昨年12月病状が随分回復していたと聞いていただけに残念でしかたない。県協会としても、今後お別れの会を催して故人を偲びたい」と語った。

窪田速男支部長のご冥福を祈りたい。



窪田速男八代支部長

県体育協会主催、平成25年全国、国際大会優勝者祝賀会 1月19日 熊本市ホテル日航



毎年この時期に行われる、全国、国際大会優勝者祝賀会に、県協会から津田ひかる選手、阪上弘一選手の2名が出席、約250名の出席者の中でテコンドー競技優勝者として最後に紹介された。

また、祝賀会前に開催された加盟団体会長、理事長会議では、特別講師として、ロスマンセルズ五輪の柔道金メダリストで、旧矢部町出身の山下泰弘東海大学副学長の講演があり「夢へのチャレンジ」とした題目で熊本での幼少、学生時代、恩師、現役時代、現在の全柔連の問題等について約1時間に亘り話された。

県協会からは樋口会長、津田理事長、西田事務局長の3名が出席した。